

WEEKLY SIGNAL

2020年4月3日(金) 1519号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

4/6(月)		4/7(火)		4/8(水)		4/9(木)		4/10(金)		
無担保O/N				△ 0.087% ~ 0.001%						
銀行券	+ 1,000	+ 1,000		ト ン			ト ン		△ 1,000	
財政他	△ 10,900	+ 1,000		△ 6,000			+ 1,000		△ 14,000	
資金需給	△ 9,900	+ 2,000		△ 6,000			+ 1,000		△ 15,000	
主な要因	国庫短期証券発行・償還(6M)			国債発行(30年)					国庫短期証券発行・償還(6M) 国債発行(5年)	
オペ期日	補充供給 + 3,400 米ドルオペ用担保供給 + 2,700	米ドルオペ用担保供給 + 1,400		米ドルオペ用担保供給 + 15,400		米ドルオペ用担保供給 + 21,300		米ドルオペ用担保供給 + 10,800		
オペスタート	国債買入 + 7,800 共通担保 + 2,000 ETF買入 + 200 米ドルオペ用担保供給 △ 6,300									
(日本)		日銀営業毎旬報告(3月31日現在) 景気動向指数(2月)		貿易収支(2月) 機械受注(2月)		日銀支店長会議 地域経済報告(4月)			国内企業物価指数(3月)	
(海外)				米 FOMC議事要旨		米 新規失業保険申請件数(4日終了数) 米 PPI(3月) 米 卸売在庫(2月) 米 シガン大学消費者マインド指数(4月)		米 CPI(3月)		

【インターバンク市場】

無担保タム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初397兆2,900億円から始まった。その後は国債発行や税揚げなどの財政等要因から同残高はやや減少し、396兆700億円を越えた。無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.017%から始まったものの、31日は調達を控える先が多く、△0.070%に急低下した。4月に入ると年度末要因が剥落したことから地銀・信託・証券等のビッドが増加し、堅調な地合に戻ったため、同金利は△0.022%~△0.017%で推移した。タム物は4月スタートのショートタムを中心に△0.01%~0%の出合が散見された。日銀が1日に発表した3月の全国企業短期観測調査(短観)において、大企業製造業の景況感を示す業況判断指数(DI)は-8となり、2013年3月調査以来7年ぶりにマイナスとなった。来週の主な予定は、国内では日銀支店長会議・地域経済報告の公表(9日)などがあり、海外ではFOMC議事要旨(8日)、米CPI(10日)の公表などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.100 ~ 0.800
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	0.000 ~ 0.003

<CP>

今週の入札発行総額は1兆9,000億円弱で、週間償還額(1,800億円)を大幅に上回った。発行市場は、期末明けの発行再開と新型コロナウイルス対策のための予防的な資金調達为重なり、活況となった。発行残高は、3月期末は20兆9,268億円に減少したものの、2日時点では22兆4,500億円強と約1兆5,200億円増加した模様。発行増と投資家の慎重姿勢に伴い、発行案件によっては減額や発行見送りとなるケースが散見された。発行レートは上昇傾向が顕著となり、大型発行案件や長めのタム案件では大幅なレート上昇が確認された。来週の週間償還額は、約2,300億円となっている。発行市場は、今週同様、発行再開と新型コロナウイルス対策のための資金調達の動きから、発行超が予想され活況となるだろう。発行レートは、引き続き上昇地合いで上限を切り上げる動きを予想する。レート水準はかなり切り上がっており、発行を見送る企業も多くなると思われる。

<TDB>

4月3日入札の3M898回債(7/6償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1022%(前回債△0.1022%)、平均落札利回り△0.1218%(同△0.1884%)となり、入札後は△0.14%~△0.15%のレンジで取引された。そのほかセカンドラリーでは、3M897回債(6/29償還)は△0.20%~△.22%、同881回債(4/13償還)は△0.07%、6M893回債(9/10償還)は△0.16%~△0.20%のレンジで出合いが見られた。

<レボ>

今週の足許GC取引は、年度末初物から始まり、△1.00%~△0.50%近辺の出合い。4月1日スタート以降は、概ね△0.20%~△0.10%のレンジで取引が行われた。SC取引は2年405~411回債、5年137~142回債、10年334~357回債、20年164~171回債、30年59~65回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。